

発言者	内容
司会（会長）	東京書籍について、いかがか。
委員	昨今、小学生の荷物を軽くする配慮をしているが、5、6年が分冊になっている点はその表れである。QRコードの掲載や、グラフの提示に工夫が見られるなど、細かなところまで練られている。全体的にバランスもとれている。
委員	上・下巻に分かれているのが特徴的である。明石や姫路など身近なところの内容もあるので、児童が関心を持ちやすい構成である。
委員	6年の学習は、他社と違って、政治、国際、歴史という分け方をしており評価できる。北方領土や竹島、尖閣の記述は各社でかなり違う。3、4年では、教科書に載っている地域と高砂市や兵庫県を比較して学習を進める。私は、日本文教出版のように、高砂に近い姫路や岡山等と比べるよりも、遠くて馴染みの薄い地域を学習するほうが、比較・対象の学習には適していると思う。
司会（会長）	東京書籍に絞った話を伺いたいところだが、これは協議すべきことである。3年の社会科の導入として学ぶ地域は、東京書籍は福岡、教育出版は横浜、日本文教出版は姫路である。知っている地名があると興味・関心が高まる。しかし、異なった地域を学ぶことで自分の地域を違った視点でとらえることができる。どちらが良いのか。
委員	社会は、自分の周りから学んだことを、調べながら広い地域に目を向けていくもの。
委員	発達段階から言えば、まず自分の知っている地域が載っている方が学習に入りやすい。住んでいる地域のこと載っていると興味・関心が高まる。ただ、導入单元だけで判断はできないことも念頭に置くべきである。
委員	自分の住んでいる地域と比較しながら学ぶのであれば、最終的には自分が住んでいる地域について、調べる力を身に付けることが目標になる。
委員	身近な地域の学び興味・関心を引くが、全く違う視点で捉えるほうが、児童は新たな学びができる。違った場所を学ぶのが良いのではないか。
司会（会長）	教育出版について、いかがか。
委員	領土問題についてページを割いているのが一番の特徴。そのほかは、東京書籍と大きな違いはなく、工夫はされている。しかし、3年に兵庫県に関連する内容が記載されていない点がよくない。

委員	横浜の都市部の様子から学びに入るので、高砂市との違いが大きく、児童が馴染みにくいのではないかと。
委員	学年が上がると本が分厚くなる点が気になる。兵庫県関連の記載が少ないのもよくない。
司会（会長）	日本文教出版について、いかがか。
委員	見開きのページに写真を並べて載せるなど、比較しやすい構成である。グラフと図の関連性や空白が多いこと、QRコードが無いこと、内容があまり練られていない点などは気になる。
委員	良い点は、見開きで比べられる構成になっているところ。歴史学習では見やすく、違いがわかりやすい。3年で身近なところが出てくるのもよい。ただ、内容はもう少し練った方がよいところもある。
委員	姫路のことがかなり載っている。子どもにとっては、隣の市なのでかなり身近な場所という印象ではないか。3年生くらいだと、導入にとっては、よいと思う。
委員	データで南海トラフの津波予想について、和歌山県庁が出した資料がある。すさみ町では3分で津波が到達するというのはインパクトがあり、命を守ることを学ぶという視点ではとても良い資料である。命を守ることを意識した子どもになって欲しい。命を守ることを教育の原点だと思う。災害を防ぐための話もあり、大変よい視点で作られた資料である。
司会（会長）	全体を通していかがか。 3社あるが、本委員会として推薦する図書はどれがよいか。日本文教出版はばらつきが大きいように思う。東京書籍と教育出版を推薦する方向でよいか。
委員	QRコードがついているとして、十分に使いこなす環境はあるのか。
事務局	タブレットが学校にあるので、使うことはできる。また、家庭で携帯電話等を活用して使える。
司会（会長）	バランスが取れているという面でも東京書籍が良いという意見だった。教科書が軽いこともよい。本委員会として、東書を第一に推薦する。